

研究会報告

訪問場所：Kan Taung村 (ケンタウン村)

訪問日：2019年 3 月28日

高峰 武

熊本学園大学特命教授



写真1 Was Phyto Aung (ウイ ピュア アン) さんの事務所

村の歴史や現在について、Was Phyto Aung (ウイ ピュア アン) さんに事務所で話を聞いた (写真1)。この地区の金ショップのオーナー夫人で、地区の実力者の一人である (写真2)。



写真2 Was Phyto Aung (ウイ ピュア アン) さん

事務所正面にスーチーさんと一緒に写った写真が飾ってある。お母さんの名前で僧院に寄付した時、スーチーさんがこの僧院の僧侶が総長を務める大学の図書館のオープンのため来ていた。食事などのイベントの準備はこのオーナーたちが負担し、一緒に記念撮影した (写真3)。



写真3 事務所正面にあったスーチーさん（右端）と一緒に写った写真（中央）

彼女の会社は金をめぐるミニ総合商社、である。金ショップ、金精錬の最終工程の工場を持つほか、鉱山の材料、水銀、機器を扱っている。移住者で、成功者と言える。

彼女は1986年に16歳でこの村にやって来た。このあたりで金が取れるのを聞いていて、親に連れられて来た。兄弟は6人いる。

25歳で今の夫と結婚し、44歳である。夫は違う村の出身だが、金鉱山の関係で知り合った。来た時にこのあたりは昔、森だったという。（金を掘る人のための）小屋ができて（人が増え）村が出来た。学校、僧院、道路、病院が揃い、2013年か2014年に政府が村として認めてくれた。このあたりに住んでいる人はこの出身ではない。

1988年から金鉱山を始め、2001年に企業・Htet Yee Linの傘下に入り、会社組織になった。金鉱山は政権の下にあり、会社が運営している。会社以外は個人。金鉱山の会社はCSR（Corporate Social Responsibility）に属しており、彼女の夫はCSR委員会の秘書。17人のメンバーの一人で、彼女もメンバーである。

彼女の会社で、金の精製にかかわっているのは35人おり、寮もある。35人の食事や洗濯も提供している（写真4・5）。会社全体では100人雇っている。写真には、監視カメラモニターが設置され、寮と思われる場所も写っていた。



写真4 事務所内の炊事場



写真5 事務所近くの洗濯場

金精製に使う水銀はマンダレーで買ってくる。酸化水銀で、値段は1.6kg 18万kyat、燃やす炭はこの周辺の森から買っている。1袋3,000kyat、森の中で炭を焼いている人がある。Was Phyو Aung (ウイ ピュア アン) さんの事務所での金精製の過程は写真6～11のとおり。



写真6 金ができるまでの一連の工程①



写真7 金ができるまでの一連の工程②



写真8 金ができるまでの一連の工程③



写真9 金ができるまでの一連の工程④



写真10 金ができるまでの一連の工程⑤



写真11 金ができるまでの一連の工程⑥

2015年から税金を払わないといけなくなった。年間、金が35万kyat、普通（日用品・雑貨など）が20万kyat。これは政権の運営システムが変わったためと思われる。

金がある程度¹⁾ たまったら、マンダレーの会社アンタンマリー（Aung Thamardi）に売りに行く。お金が足りないときは量が少なくても売りに行く、という。

彼女は、鉱山の未来については楽観的である。

「鉱山はまだ（開発を）やっていないところがある。30年やってきたがまだ残っている。まだとれます、大丈夫です」と言う。

現在の家族構成は、夫婦と子ども2人の4人家族である。

長男はマンダレーの大学に在学、マンダレーに持っている家から通っている。長女は中学5年生である。彼女によると、この地区は教育熱心で、若者の3分の1が大学に行き、3分の2は高校に進学する。学校に行っていない子はいない、という。日本の高度成長期も総じて教育熱が高かったことを思い出す。

この夫婦は成功者の典型でもあろう。彼女の出身地のシンカイには、梅40acre、マンゴー15acre、米25acre、合計80acreを持っている。水田はもともと持っていたが、梅の畑は金鉱山を始めてから買い足したものだ。農業は親戚に任せており、彼女の両親はシンカイに戻った。自分らは、ここでのビジネスがあるので帰れないという。

梅の畑を買い足したのは、「金鉱山がだめになっても、梅のビジネスで生き残る」との狙いからである。金鉱山ができなくなってもいいようにビジネスを広げたわけだ。親戚には、ダイヤモンドの事業をしている者もいる。

屈託なくインタビューに応じたが、水銀の話題ではこんな風に答えた。

「水銀を使わないようにという話は知っているが、この先は分からない。他に方法があれば教えて下さい。水銀の代わりに何を使えばいいのか」

感想

金を求めて、人が集まり、道ができ、僧院ができ、病院ができて村となり、政府が認めたという話は面白かった。ただ、ここでも政府とCSR、個人などとの関係がもう一つ分からなかった。他の地区でもそうだった。

まだ金が取れると楽観的だったが、一方で水銀使用については、「水銀に代わりに何を使えばいいのか教えて欲しい」と言っていた。水銀の規制だけでなく、水銀をどうしたらなくせるか、具体的なアドバイスも必要だろう。

この金精製工場は事務所のすぐ近く。工場の隣は台所。親子で食事の準備をしていたが、部屋の上は仕切りがなく、水銀を飛ばす工程の空気はそのまま台所に流れている（写真5.12）。気にしてはいないようだったが、長期的には問題だろう。



写真12 事業所の中庭から煙突がみえる

注

- 1) 中地は4, 5個、中村は4, 5kyat、田尻は40～50kyatとメモの表記が異なる。